

アコヤガイへい死対策に向けた飼育試験調査結果（R4）

（避難漁場実証試験〔稚貝〕最終版）

（調査日：令和4年12月1日）

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 目的

- アコヤガイの大量へい死対策として漁業者が主体となって実施している、高水温期に母貝養殖の実態がない海域で稚貝を育成する試験における、リスク分散の有効性について検討する。

2 試験区の設定

- 避難試験漁場を宇和海北部漁場の西予市、宇和島市（北部）に設定し、比較漁場をそれぞれ同じ系統の日中交雑貝を垂下している宇和島市（南部）と愛南町に選定し、地点間、系統間で比較を行った。

3 調査結果の概要

- 調査した地点すべてで、異常死は見られていない。
- 海域を通じて外套膜の萎縮は確認されず、貝殻内面の褐変は0-5%確認された。
- 海域を通じて貝殻内面の段が0-100%見られた。

海域	地区	系統	調査日	殻長(mm)	萎縮	褐変	段(内面)
北部(試)	西予市	日中交雑貝A	12月1日	35.4	0%	0%	30%
北部(試)	西予市	日中交雑貝B	12月1日	42.9	0%	0%	0%
北部(試)	宇和島市	日中交雑貝B	12月1日	35.7	0%	5%	100%
南部(比)	宇和島市	日中交雑貝B	12月1日	38.5	0%	0%	5%
南部(比)	宇和島市	日中交雑貝B	12月1日	35.9	0%	5%	75%
南部(比)	愛南町	日中交雑貝A	12月1日	41.3	0%	0%	25%
南部(比)	愛南町	日中交雑貝B	12月1日	33.3	0%	0%	65%

試:試験漁場 比:比較漁場

4 調査方法

- 水産研究センター職員が各漁場を回り、貝の状態、へい死率を確認するとともに、地点及び貝の系統毎に20個体を水産研究センターに持帰り、貝殻及び貝肉の状態を調査。